

# コロナ禍でのまちづくりの様々な取り組み

茨城県古河市 けやき平自治会 会長 山口 義美

当地は大手デベロッパーによる新規分譲住宅として開発され、平成7年（1995年）より販売が開始された地域ですが、景気変動もあり25年余りを経過しながら長期間にわたる分譲がなされて、つい最近ほぼ販売が完了するという住宅地です。その影響もあり住民の年齢層もかなり広範囲に分布する多世代の住民が居住するコミュニティとなっています（図1：住民は多世代に亘っている）。現在は5-3世帯で構成している自治会です。

当自治会としては「信頼と感謝の心が生きている街づくり」をスローガンに多世代にわたる住民相互のつながりの活性化を目指して活動をしています。これまでは古河市主催のソフトボールやバレーボールなどのスポーツ行事や運動会などに児童から高齢者まで積極的に参加し、また地域の盛り

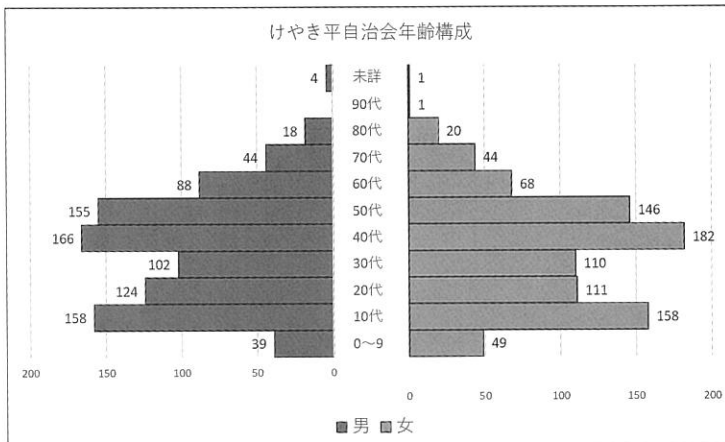
けやき平自治会人口推計

年代	男	女	全体
0～9	39	49	88
10代	158	158	316
20代	124	111	235
30代	102	110	212
40代	166	182	348
50代	155	146	301
60代	88	68	156
70代	44	44	88
80代	18	20	38
90代		1	1
未詳	4	1	5
合計	898	890	1,788
平均年齢	39歳11ヵ月	39歳4ヵ月	39歳7ヵ月

(2022年4月1日現在)

上げ策として自治会祭りも盛大に開催して参りました。しかしながら、このコロナ禍の中にあつてはスポーツ行事やお祭りの類いのイベントは見合わせざるを得ず、従来路線での自治会活動の見直しを余儀なくされました。

けやき平自治会年齢構成



(図1)



高齢者の地道な活動が頼もしい

従前の活動でも影響の少ない、近隣小学校への学童の通学の誘導や安全指導を行う「地域安全見守り隊」、地域内の公園の美化・緑化活動により行き交う人に安らぎを感じてもらおうと頑張っている「ガンバ老会」など高齢者を中心としたボランティア活動は、感染防止に十分注意を払いながら現在も継続しており、地域の多世代交流の重要な一翼を担っています。特に「地域安全見守り隊」は約17年前から毎朝、雨でも風でも子どもたちに声を掛けながら実施してくれています（8年前には国の文部科学大臣から表彰されました）。また「ガンバ老会」は公園の雑草を毎年刈り取るだけではなく、環境的に良くなる方向を探り古河市と相談しながら、白い小さな花が6月頃に咲き誇る「クラピア」という植物を植栽して、その後も時間を掛けてこつこつと増やしてくれました。住民の人たちもこの小さな花に癒されており、今後が増やし続ける予定です。このように人生経験が豊富な高齢者の方々が、積極的に地域貢献に惜しみなく努力してくださるのは、とても恵まれた地域だと感謝しております。

ポータルサイトの立ち上げで情報がクリアーに

加えてコロナ禍での地域連携の強化策として、新たに「キラポタ」というインターネット上に開設したポータルサイトを立ち上げることとしました。自治会員ならだれでもいつでもどこでも自治会からのお知らせや各種行事情報を見られるように、パソコンだけでなくタブレットやスマートフォンにも対応しています。転入・転出など自治会への申請もインターネットでできるようにし、地域住民からの問い合わせにも同様にポータルサイト上で対応できるようにしました。定期的な自治会役員会議もポータルサイト上からメールで招集します。その他、自治会館を住民同士の積極的な交流の場として利用しやすくしようと企画し、各種同好会、クラブなどの自治会が認めた団体が利用できるように「自治会館使用予定カレンダー」をいつでもだれでも見られるようにしてあり、スムーズな予約ができるようになりました。

地域ミニコミ紙を発行して  
共通の意識を高める

また、従前より自治会活動を地域住民に解りやすく理解してもらうことを目的として、年に3回発行している地域ミニコミ紙「けやきラー」も紙面をカラー化してさらに読みやすくしました。初期はモノクロ印刷で、自治会で決めたことや古河市で催すいろいろな行事に参加したことなどを報告する形で発行していました。最近は紙面の内容に興味を持って読んでもらえることを目標にして、理解しやすい文章と写真で構成しながら、それぞれの生活に役立つ情報を盛り込んで、広報委員や執行部役員の協力を得ながら記事づくりをし、次号発刊を楽しみにしてもらえることを目指しています。そしてポータルサイト「キラポタ」との相互補完を図りながら継続して発行しています。

コロナ禍の中、自治会は感染予防対策として何をすべきなのか考慮して、まず住民たちが利用する自治会館に顔認証型検温器と手の消毒液を設置したり、定期役員会議をソーシャルディスプレイが保てる広い会場を借りて行ったり、あるいは広い会場がおさえられない時は狭い自治会館で入場する人数を制限して分散会議にすることも度々ありました。そして年度の変わり目に必ず行う自治会総会においては、一般自治会員の参加を要しない書面表決を採用する



(写真1)「地域安全見守り隊」による学童の通学見守り

ことで審議の結論を出しました。

このように時代の変化やニーズに合わせた柔軟な自治会運営に取り組むことにより、地域住民に寄り添いみんなが緩やかなつながりを持ちながら、多世代の交流を深めていけるよう努力しています。

### 活動の様子

(写真1)「地域安全見守り隊」総勢11名は、雨の日も風の日も子どもたちの通学時に安全に小学校まで送り届けるために誘導した



(写真2)「ガンバ老会」による公園緑化活動

り各要所で見守りや交通指導を自主的に  
行っています。子どもたちは毎年入れ替わ  
り同じ年齢ですが、約17年前から続けてい  
る見守り隊スタッフは、上は87歳、下は74  
歳の高齢者が頑張っています。

(写真2)「ガンバ老会」は公園の美化・緑  
化に力を注いでいます。毎年雑草が蔓延し  
てしまう近くの公園を何とかしたいと考え、  
最初は古河市の助成を受けながら「クラピ  
ア」という「姫イワダレ草」の仲間の苗を  
植え育て始めました。今では公園全体の3



(写真3)「けやき会(老人クラブ)」と「子ども会」の父母による公園清掃

分の2ほどの面積が覆われるほどに広がっ  
て、春になると可憐な花が咲きミツバチも  
飛び回り素晴らしい光景となり、行き交う  
人も足を止めて感嘆の声を上げ見とれるほ  
どになりました。

(写真3)「けやき会(老人クラブ)」と「子  
ども会」の父母は毎年定期的に地域内の公園  
清掃を自主的に行っています。コロナ禍の現  
在も感染防止に十分配慮の上、地域の美化に  
少しでも貢献できるようみんなで頑張ってい  
ます。



(写真4) 「子ども会」によるラジオ体操

(写真4)「子ども会」は毎年夏休みの時期に朝7時から小学校に通う子どもたちを集めて地域内の公園でラジオ体操を主催しています。6年生と子ども会の役員が前に出て、学童の兄弟姉妹や親、近隣の方々と一緒に体操をやります。児童たちには最後に参加のご褒美があります。

(写真5)多世代が暮らす当自治会の中でも、ともすれば普段仕事で余りなじみのない現役の若手世代にも親しみやすく、より身近に感じてもらえる自治会を目指すため

**初期画面 (PC)**

**初期画面 (スマホ)**

**キラポタ画面構成図**

この図は「キラポタ」の画面構成を示しています。中心には「ポータルサイト キラポタ (Googleサイト)」があり、これに以下のサービスが接続されています：

- 自治会からのお知らせ (各種お知らせ: 自治会・同好会・回覧板) - Googleドライブ
- インターネット申請 異動届・問い合わせ (自治会への各種申請や問い合わせの受付) - Googleフォーム
- 自治会カレンダー (行事・自治会館使用予定) - Googleカレンダー
- メールリスト (自治会役員用) - Googleグループ

また、自治会からのお知らせには「自治会からのお知らせ」や「自治会館使用予定」の通知が含まれています。

(写真5) インターネットポータルサイト「キラポタ」による自治会情報の共有

に、インターネットポータルサイト「キラポタ」を開設しました。また、これだけインターネットが普及した現在の環境においては、高齢者の方であってもスマートフォンを使いこなしたネットショッピングなどを

楽しんでおられる方もいらっしゃいますので、多くの自治会員の方がだれでも・いつでも・どこでも見ることができるようスマートフォン・タブレットにも対応したWebサイトとしました。



(写真6) 初期の頃の「自治会だより」として発行する目的は、地域住民の皆さまが自治会の活動をきちんと理解してほしい！と考えてスタートしました。選ばれた役員だけが活動を理解できても、往々にして一般住民の元には情報がなかなか届かないことがあり得るだろうと想定して、ミニコミ紙の形で文字情報によって伝えようと経費節減も考慮しモノクロ版で始めました。最近ではスポーツイベントやお祭り等の行事がすべて中止なので記事づくりは苦勞しています。



(写真6) 地域ミニコミ紙「けやきら！」による地域情報の共有

す。それでも住民の生活に役立つ情報を盛り込んだり、新生児の誕生を伝えたり、カラー印刷にして記事の内容に興味を持って読んでもらえることにも配慮して、年度ごとに選出された広報委員（4名）や執行部役員の協力を得ながら記事づくりをしています。

(写真7) 新型コロナ感染防止対策の一環としてZoomによるWeb会議システムを活用して打ち合わせを行っています。会場の



(写真7) Web会議システムによる自治会執行部の打合せ

確保や机・椅子のセッティング、片付けも不要ですし、何よりコロナ・フリーの環境で打ち合わせに集中できるので安心感があり好評です。

(写真8) 自治会行事の最大のイベントとして、皆が楽しみにしているのが自治会祭りでです。新型コロナの影響で昨年はできませんでした。その中でも老人クラブが企画



(写真8) 毎年たくさんの方が集まる自治会祭り



(写真9) 三世代交流「将棋クラブ」始まる

して行く輪投げゲームなどは人が途切れることがありません。この輪投げの賞品は老人クラブが栽培した採れたての大根です。また子ども会が企画している景品引換券の入ったカプセル釣りも人気です。そして最後に行う最大のゲームは、全世帯が参加できるビンゴゲームです。数百人の人たちがステージ前に集まりひとつひとつの数字によって住民同士のつながりを強め、さらに多世代の交流を深めるような機会になるように、催しの内容は多少変化させつつこれからも続ける予定です。

(写真9) 子どもたちと高齢者の脳トレを兼ねたお楽しみ将棋クラブを始めました。

三世代交流の場として、また親子で将棋を通して楽しむ場として、自治会員の交流と親睦を図る場として毎月平日と土曜日の二回で楽しんでいます。藤井聡太最年少記録三冠棋士にあこがれた子ども同士の真剣勝負。昔取った杵柄で一生涯懸命頑張る二人のおじいさん。子どもに優しいおじいさんの顔で会場を回り将棋を楽しむ姿は理想的な三世代の交流そのものです。

指導を引き受けて頂いている小野先生は「将棋は楽しむことが一番、将棋に親しんでください。あまり先を急いではダメ」と言います。

5歳の幼稚園の子どもとお母さん、8歳のおじいさんまで2時間楽しく遊んでいます。コロナ禍で満足に開催できていませんが、子どもたちの思考力アップと高齢者の脳トレに役立つことを願ってこれから頑張ります。

好きな将棋で遊んで、親子の絆が生まれることを願いつつ、「玉手」の掛け声にみなさん爆笑しています。